

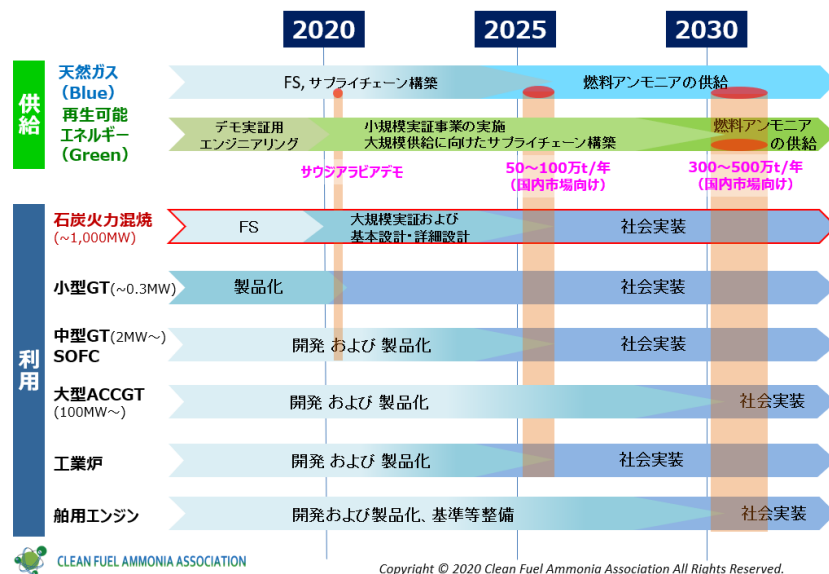
## 燃料アンモニアの社会実装に向けて 一般社団法人クリーン燃料アンモニア協会 岡島裕一郎

気候変動対策が本格化する中、世界各国で脱炭素に向けた水素エネルギー活用の取り組みが加速している。我が国では、2014年の第4次エネルギー基本計画に水素が初めて記載されて以降、官民一体となって水素エネルギーの普及拡大を推進している。

政府の水素・燃料電池戦略ロードマップや水素基本計画では、現在は「国際水素サプライチェーンを構築し、水素発電を導入する」第2フェーズへの移行期ということになる。海外からの水素大量輸送を想定した場合、有望な水素キャリアとしては液化水素、有機ヒドライド、アンモニアが挙げられる。これら3キャリアにはそれぞれ一長一短があるが、アンモニアは①3キャリアの中で体積水素密度が最も高い、②現在も大型外航タンカーによる輸送が行われている、③安全確保のための規制・ガイドラインが既に整備されている、④近年、アンモニア直接燃焼技術の開発が進められ、その多くで実証が進みはじめており、実装が見える段階まで来ている、等の特長を有しており、上記の第2フェーズを実現するための水素キャリアとして最も現実的な選択肢であると言える。

こうしたことから、昨年12月に公表された政府のカーボンニュートラル実現に向けたグリーン成長戦略で燃料アンモニアが重点分野の一つに挙げられる等、政府のエネルギー政策においてもその位置づけが高まってきている。

今年度から石炭火力発電所でのアンモニア混焼の大規模実証試験が開始され、2020年代半ばでの燃料アンモニア社会実装に向けた取り組みは着実に進捗している。講演では、燃料アンモニアの実用化に向けた官民の動向を紹介する。



燃料アンモニアの社会実装に向けたロードマップ (供給・利用)